



二葉幼稚園

2021年 園のたより 12月



12月の聖句

おめでとう めぐまれたかた

ルカ1章28節

12月のさんびか

かみさまのおやくそく

ようじさんびか27

喜びいっぱい



暖かい日が多い中、早いもので12月になりました。夏のある日、園庭では草花に興味のある年長の子ども達が、沢山の水仙の球根をせっせと掘りあて、宝物を見つけたとばかり、意気揚々としていました。丁度、園見学にいらした方にも「はい、これあげるわ。お土産」初めて出会った人にも喜びを分け合う様子に心がほのぼのとなりました。一連の様子があまりに微笑ましくて、一緒に喜び合い、その姿を素直に受け入れた後、毎年2月頃に花が咲くのを皆で楽しみにしてきたこともさり気なく伝えました。「ほな、また植えとこ！」何人かでいそいそと、元あった場所に水仙の球根を埋めなおしていました。数ヶ月がたち、どうなるかな？と思っていた矢先「先生！来て！芽が出てきたよ！」と先日、子ども達が知らせてくれました。

毎年、春に子ども達が植えて育てた野菜を、夏に収穫して皆で頂きます。秋には畑を綺麗にして、皆が進学進級する頃に春の喜びを告げる花々の球根を子ども達が植えます。先日、各学年でチューリップの球根を大事に大事に植えました。小さな手で植え、柔らかな土をかけお祈りをして「大きなあれ」のおまじない。毎年歌う♪球根の中には♪という讚美歌があります。

球根の中には 花が秘められ さなぎの中から いのちはばたく  
寒い冬のなか 春は目覚める その日その時を ただ神が知る  
沈黙はやがて 歌にかえられ 暗い闇のなか 夜明け近づく  
過ぎ去った時が 未来を拓く その日その時を ただ神が知る

例年、子ども達もこの歌の虜になるようです。深い歌詞ですね。子ども達の心にも響くこの歌詞のように、神さまのご計画の中、私達の目には見えないところで大切ないのちが生まれ、一瞬一瞬積み重ねられた時が、未来を拓くのですね。

さて、クリスマスが近づくと、幼い頃、教会学校で聴いたトルストイ原作の「靴屋のマルチン」を思い出します。マルチンは妻を亡くし、子どもも病気で失いました。苦悩に耐えかねたマルチンは、聖書に出会います。ある日「明日私はあなたのところへいく」と神さまの声が聴こえます。翌日、神さまを待っていたマルチン。雪かきをしていたおじいさんに温かいお茶を出し、赤子を抱く薄着の女性に食事を出して上着を差出し、空腹でリンゴを盗んだ子どもを諭し、代金を肩代わりする等して一日が過ぎていきました。その夜、神さまに会えなくてがっかりしていると「ありがとう。あなたが出会った人は全て私だったのだ」と神さまの声が聴こえたのです…。マルチンの心は喜びいっぱいになりました。絶望の先に喜びで満たされたマルチン。

「わたしの兄弟であるこれらの最も小さい者の一人にしたのは、すなわちわたしにしたのである」マタイ24:40

至らない時はありますが、私達もできる限り子ども達ひとり一人に向き合いたいと願っています。ともすれば独りよがりです。「自分が自分」という思いに縛られ、身動きがとれなくなる時もあります。子ども達が日々、様々な葛藤を乗り越え、自分や他者を赦す時、互いに険しい表情が一変し、喜び溢れ笑顔が広がります。そんな姿に出会う度、かたくなな私達の心もほぐされてゆきます。球根やさなぎの中で見えない成長を続けるいのち、心の中で様々な思いを抱え育ちゆく子ども達。月の聖句「おめでとう めぐまれたかた」と、もしも私達がこう天使に告げられていたなら、その意味を自分にも置き換えながら、子ども達と一緒に喜びいっぱいの瞬間を綴っていきたいですね【園長】